

Celtic Christmas 2023

冬の風物詩、ケルティック・クリスマスが4年ぶりに戻ってきた！
音楽は人がいてこそ存在する～そんな大切なことを思い出させてくれるケルクリ

text：天辰保文

冬の風物詩、ケルティック・クリスマスが戻ってくる。2020年、オンラインという形で開催されたが、師走の下町に足を運び、楽しい時間を過ごす、通称ケルクリが開催されるのは、4年ぶりになる。もちろん、新型コロナウイルスによるパンデミックが中断の理由だ。この間、それまでと同じように音楽は存在したが、ミュージシャンたちのパフォーマンスを、その場で複数の人たちと共有する行為にこれほどの特別な感情を抱いたことがあっただろうか。音楽との暮らしの中で穴が開いたというか、決定的な何かを欠いたような気にさせられた。ケルティック・クリスマスは、日頃の生活での音楽の存りかたを見直させてくれる場だったので尚更だ。つまり、音楽は人がいてこそ存在する。そこには人々の暮らしがあり、音楽を通じていろんな文化や歴史に触れることで、ぼくは想像力を鍛えられてきた。それも、畏まらず

に、こんなにも楽しく。普段、忘れがちな大切なことを思い出させてくれる、故郷のような存在がケルティック・クリスマスだった。

第1回は1998年、ドナル・ラニー・クールフィン、ソーラス、ALTらで開催、2002年の第3回から毎年恒例のシリーズとして定着する。チーフタंत्रズの初来日公演を含めた1990年代の前史にあたる頃を含めると、30年近い歴史がある。ケルクリのおかげでどれほど多くのミュージシャンたちを知り、どれほど豊かな音楽と出会っただろうかと思う。今回は、ダーヴィッシュ、ルナサ、デイヴィッド・ギーニーの3組がやってくる。30年以上にも及びアイルランドのトラディショナル音楽を牽引してきたのが、ダーヴィッシュだ。フィドル、アコーディオン、フルート、ブズーキ、マンドーラ、パウロンといった楽器で、自然で素朴だが豊かなアンサンブルを奏でる。アルタンと共に

アイリッシュ・トラッドの両横綱が揃った2015年以来の来日公演だ。ルナサも、演奏の名手が揃ったスーパー・バンドで、見事なアンサンブルで圧倒する。熱気ほとばしる瞬間は彼らならではの、世界を股にかけて活躍するせいか、現代的で、動のイメージが強い。メンバーのケヴィン・クロフォード、キリアン・ヴァレリーがナタリー・マーチャントの傑作『キープ・ユア・カレッジ』に参加したのも記憶に新しい。例えばふさわしいかどうかかわからないけれど、ダーヴィッシュには土の匂いが、ルナサには風の匂いがする、この両者が一緒に楽しめるだけでも嬉しい限りだ。そして、ダンサーのデイヴィッド・ギーニーは、スピード感にあふれ、華やかな動きで目を奪うに違いない。辛くて厳しい季節が永遠に続くわけではない。そのあとには楽しい祝祭が待っていてくれることを教えてくれるはずだ、きっと。

4年ぶり開催!

ケルト音楽の祭典!

Celtic Christmas 2023

ケルティック・クリスマス



冬の恒例
ケルト音楽のフェスティバル、
ケルティック・クリスマスが
遂に4年ぶりに帰ってきた!

ルナサ
Lúnasa

ダーヴィッシュ
Dervish

初来日!
デイヴィッド・ギーニー
David Geaney

ハンバート ハンバート
12/3(日)所沢公演に出演!

11/26(日) 東海市芸術劇場 大ホール
12/01(金) 兵庫県芸術文化センター 阪急中ホール
12/02(土) すみだトリフォニーホール 大ホール
12/03(日) 所沢市民文化センター ミューズ アークホール

総合お問合せ プランクトン 03-6273-9307(平日13時~17時)
<https://plankton.co.jp>




Ambasáid na hÉireann | An tSeapáin
Embassy of Ireland | Japan
アイルランド大使館 | 日本

